

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	2775502814		
法人名	医療生協かわちの生活協同組合		
事業所名	グループホームよおぎ 東町		
所在地	八尾市八尾木6-100		
自己評価作成日	平成25年2月12日	評価結果市町村受理日	平成25年4月23日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	特定非営利活動法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク福祉調査センター		
所在地	大阪市中央区常盤町2-1-8 親和ビル4階		
訪問調査日	平成25年3月29日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

当施設は『住み慣れた地域でその人らしい生活を送っていただく』ということをモットーにゆったりと安心して過ごしていただける居住空間の提供を心掛けています。嬉しい事や悲しい事を入居者様と共感できるような【寄り添いの介護】を行ない、入居者様一人ひとりにあったケアに取り組んでいます。また、併設のクリニックと連携を図りながら緊急時の対応など安全面の確保も行っております。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

グループホームよおぎは医療生協かわち野生活協同組合を事業主体とする医療介護の複合施設である。平成18年3月、ふれあいセンター八尾の鉄筋3階建の2階部分に、「住み慣れた地域でその人らしい生活を送っていただく」と言う目標の下に開設された。1階には八尾クリニックとケアプランセンターを、2階にはデイサービスとショートステイを併設し、医療面は必要に応じて受診ができ、夜間や緊急時の連携もあり、安心・安全な生活が出来る。法人理念を「協働と連帯の力でいのちと人権を守る医療・介護と健康作りを目指します。」と掲げ、会議で唱和をして名札の中に携帯している。認知症を理解し、利用者一人ひとりの生きがい、やりがいを引き出し、個別対応を大切に1日の予定を柔軟に組み、ゆっくり過ごせる様に工夫している。地域交流も盛んで、地域災害協力隊員が40人で編成されている。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	1. 誰もが自分らしい生き方を 2. 命と人権を尊重する介護 3. 安全、安心の室の高い介護 4. 介護を受ける権利を守り発展させる運動。	ISOを取得し、2010年2月に法人理念を分かり易く簡明なものにする為、職員で見直しをして変更をした。その理念を職員で共有し実践している。現在、地域密着型サービスとして「よおぎ」独自の理念を考案中である。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会や地域の組合員に支えられており1年を通じて多数の行事や活動に積極的に深めている。	地域住民や組合員の活動により設立されたので、利用者も組合員としての愛着があり、組合員ホールは、毎日、行事で詰まっている。公園でのコミセン祭りにも事業所は地域の一員として参加し、交流を図っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	法人、組合員として取組んでおり、事業所では地域からの個別相談のある場合は随時対応している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	毎回取組んだ内容を報告を行い参加者から率直な意見や要望を伺いサービスの向上につなげるようにしている。	会議は年6回開催され、メンバー構成員は満たされている。会議ではサービス内容を報告し、議事録はファイリングされ、参加していない職員や家族等、誰でも見ることが出来る。会議での意見は質向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の施設部会、行政などに参加し情報交流を図ると共に、適宜連絡、相談を行っている。	八尾市指導監査室との連絡が多く、生活福祉課や、地域連携推進室等も含めて、事業所の実情や取り組みなどについて連絡をしたり、不明なことを気軽に相談して、協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設手順書に順じて理解している。夜間の玄関とエレベーターは施錠を行っている。	認知症の伝達研修や身体拘束の研修を実施し、職員は介護指定基準に於ける禁止の対象を、正しく理解している。夕方に帰宅願望の強くなる利用者については、心情を理解し気分転換を図り、見守りを行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待について理解しているが研修等は行っていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	個人での学習に限られており事業所全体での研修等は行っていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者、家族が理解できるよう丁寧な説明を行い質疑しやすい雰囲気づくりを心掛けている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	3ヶ月ごとに家族会の開催、面会時の対話の内容等、職場会議や申し送りで報告を行い必要に応じて対応の検討を適宜行っている。	3か月毎の家族会(10家族程が参加)や、1年に1回のアンケート調査、運営推進会議等で意見を表明できる機会を設けている。家族会の議事録は請求書とGoodHome便りを、同封し不参加の家族にも郵送している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職場会議で直接意見を聞いたり、無記名で意見が出せるよう意見袋を設置している。また年1回であるが職員面談を実施している。	毎月の職員会議(13~14名出席)には、職員の意見や提案を聞き、無記名の意見袋も設置している。管理者との個人面談も1年に1回ある。懸案事項であった担当制も職員の提案は協議により移行の段階にある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務希望を出来るだけ反映できるよう調整し職員間でも調整し合う環境ができているように、各自が責任を持って職務にあたるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外での研修に参加できるよう、声掛けや掲示を行っている。面談時には力量チェックシートで各自フィードバックを行い指導の機会としている。法人でEラーニングを開設しネットで各自スキルアップできるよう努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内の施設間では研修、会議、交流会の開催など機会を多く設けている。法人外ではGH分科会や市の施設部会、民医連主宰の学術運動交流会などに参加している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	新しい環境に慣れてもらう為にも、話しをしたり日課を本人のペースで築けるよう共に過ごす時間を大切にしたい支援を心掛けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	来訪時は介護職員だけでなく計画作成者や管理者も話しかけ、日常の様子や施設の説明など行っている。また一方的に話すのではなく疑問に思っている事や不安などないか確認しながら関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	主に計画作成者が生活歴や入所前の様子を利用者、家族より聴取を行い、適宜カンファレンスを実施している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	掃除や食器洗いなど一緒に家事をしている。余暇時間等は何をするか利用者と相談しながら過ごしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	受診の付き添いや定期的な外出など家族に対応してもらったり、行事ごとなど家族と参加を募るなど家族間との関わりが持てるよう支援している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人や友人が来訪した時は明るく招き入れ、居室にてお茶でも飲みながらゆっくりと談笑していただいている。	利用者の知人の訪問受け入れや、八百屋、美容院、商店街に出掛けるなどして、これまでの人間関係や場所が途切れない様に努めている。毎月の家族とのお墓参り、正月の帰宅なども支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	孤立しないように声掛けや座席の位置を工夫している。職員が入って関わりが持てるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用終了しても必要に応じ相談など行い変わらない関わりを持っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常より一人ひとりに耳を傾け要望、希望の把握に努めている。	入居時、家族に初回アセスメントを行い、サービス計画書を書き込んでもらい、思いや希望を把握している。時間の経過と共に変化する利用者の生活状態や行動を把握し、本人本位に支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式の活用するなど利用者の生活歴や暮らし方を理解するよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎朝バイタルチェックを行なうことで必ず利用者向き合う機会を持ち、声掛けや日常の生活を観察する事で現状把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日常生活の様子や家族、職員から知り得た情報を元に介護計画を作成しており、モニタリングで介護計画の実施状況や評価を行い継続したサービス提供を心掛けている。	初回アセスメントから、日々のタイムミーティング、スタッフ同士の記録、チャレンジ目標シートの話し合い、記録化を経て、利用者・家族の同意の下、介護計画を作成している。モニタリングは2ヶ月ごとに実施している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の体調、活動状況を記録し情報を共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	併設クリニックと連携し医療面でのサポートをおこなっている。訪問歯科や地域から散髪やボランティアの来訪など取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	生協組合員ホールへの訪問や地域の祭りや催しごとに参加している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	併設クリニックの医師、看護師と密に連携している。	家族と話し合いのうえ、納得を得て急変時の医療連携が出来る併設のクリニックをかかりつけ医としている。従来のかかりつけ医の受診を必要とする時は、家族の協力を得て、継続受診を支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日中は併設クリニックと連携し随時相談できる。夜間はオンコール体制をとっており、担当看護師、医師の指示を仰ぎ適切な対応が取れる体制をとっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際は定期的に面会に行き情報収集を行い病院のMSWを通じて相談、調整を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族、医師、看護、介護とのカンファレンスを実施することで情報を共有し方向性の統一を図りチームケアに努めている。	重度化や看取りに対する対応は「重度化した場合における対応に係る指針」に明記し、契約時に説明して同意書を得ている。家族、医師、看護師、職員が一丸となって、過去に看取った経験がある。その時の経過状況はその都度文書に残している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	研修や日常業務を通じてスキルを伸ばし、急変時の対応に備えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の指導の元、組合員の災害協力隊を交え年2回避難訓練を行っている。	年2回消防署の指導の下、災害協力隊の協力を得て、避難訓練を実施している。防災対策については日常的な課題として認識し、災害時の避難体制、備蓄品の準備など、詳細なマニュアル作成の必要性を考えている。	夜間の災害時には、何かあった時どう対応すべきか、災害の種類ごとに話し合い、実効性のある体制を整備し、年間計画として繰り返し訓練を行うことが望まれる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人を尊重し、個々に応じた声掛けや対応をおこなっている	法人全体の接遇研修を実施して、日々の介護に於いては声かけ、言葉遣い等に注意を払い、利用者を尊重した対応を心がけている。個人情報に関する書類は、鍵のかかる書庫に適切に管理している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	選択できるような声掛けや自己決定できるような声掛けを心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日課として一日の流れがあるが、利用者の体調、意向に沿って支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類の好みを伺いながら一緒に準備したり、整容、身なりには気をつけており、衣類の汚れがあれば適宜更衣、洗濯を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	施設内の厨房より調理された食事を利用者と共に取りに行き準備をしている。配膳、片付けなど利用者が出来ることは手伝ってもらっている。	食事は施設内の厨房で、利用者の状態に合わせ調理をしている。ご飯はフロアで炊き、利用者の力を活かし、準備、配膳、後片付けを共に行っている。担当職員が検食チェックをし、3ヶ月毎に給食会議を行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分摂取量を確認しており、必要に応じて療養食や栄養補助食の対応を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの声掛け、手順説明をするなどの支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握し、トイレでの排泄を基本に支援を行っている。	排泄チェック表を活用して個々の排泄パターンを把握し、声かけしてトイレ誘導している。昼間は出来るだけ布パンツにパットを使用するよう支援をしている。自室でポータブルトイレを使用している利用者がいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	体操やウォーキングなどの運動をしている。排泄表を管理し医師の指示により下剤の調整をお粉手折る		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週に3回、個浴槽にて入浴をしている。体調不良、気分が優れないなどの際は日時をずらすなどの対応を行っている。	基本的に週三回、午後の個浴で、ゆったりとした気持ちよい入浴をしている。季節によって菖蒲湯、ユズ湯にしたり、本人の好きな音楽を流すなど、入浴が楽しめるよう支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入眠時間になるまでフロアで過ごしたり居室で過ごしたり個人の意思を尊重している。時間にはパジャマへの更衣を促し自力で行うよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護師により薬の準備を行い、服薬時には必ず日付、氏名を声にして確認し服薬している。各ユニットごとに設置している薬情報ファイルにはいつでも内容が確認できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	集団のレクリエーションや音楽療法、太極拳、書道などや個々の趣味活動として俳句、気孔、貼り絵などの機会を提供している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	個別対応での買い物や散歩の支援をしたり地域での催し事に家族やボランティアの方と一緒に参加している。	利用者の身体状況を見ながら家族、ボランティアの協力で、買い物、外食、美容院、公園へ出かけたり、お弁当持参の遠足、花見に行くなどしている。建物の屋上で体操や季節の野菜を収穫し、季節の移ろいを感じ、外気に触れる支援をしている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理の出来る方は自分で所持されており、管理が困難である方は事務所内金庫にて保管している。必要に応じ金銭を渡し買い物など行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者宛てに届いた家族や知人からの手紙やはがきは手渡している。電話の希望があれば事務所にて掛けてもらっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	屋上では野菜や季節の花を栽培しフロアには利用者と装飾している。玄関、フロアは利用者と清掃し、常に清潔が保てるよう努めている。	ユニット内は腰壁に木質を使用し、障子風の建具を入れ、日本家屋の設の、ゆったりと安心して生活できる家庭的な共有空間がある。壁には利用者の作品、書道、行事写真等が飾られ、清潔な環境である。採光のよいリビングから信貴生駒山系が眺められる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人ひとりに個室があり個々の時間を過ごせるスペースがある。フロアは各テーブルやソファで少人数ごとに過ごされたりしているがパブリックスペースとして確保は出来ていない。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家で使っていた物やなじみの物を居室に置き自宅で過ごしているような環境づくりに努めている。	各ユニットごと和室6室、洋室3室ずつある。居室入り口には自室が解るように、名前と番地の表札が掲げられている。馴染みのタンス、椅子、テレビ、仏壇などが持ち込まれて、従来の生活の継続性が確保されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内はバリアフリーで手すりが設置されている。非常扉以外はすべて引き戸にしており安全面への配慮に努めている。		